

平成 24 年度遺伝子組換え作物栽培指針検討委員会結果概要

1 日時

平成25年 2 月 7 日（木）14:00～16:00

2 場所

滋賀県庁北新館 5 A 会議室

3 出席者（五十音順、敬称略）

岩井利之、大島淳、大西久子、高橋克忠、田中良和、辻林ひさ子、苗村暢子、西山実、長谷川博（10 名中 9 名出席）

4 議事

（事務局）

本委員会について、これまで毎年 1 回開催していたが、今後は必要に応じて開催するように改めたい。本日は、これまでの委員会の議論を整理いただきたい。

（委員）

開催するかどうかの判断は誰がするのか？

（事務局）

県が行う。

（座長）

最初に事務局から資料の説明をお願いする。

（事務局）

資料 3 を説明

（座長）

ざっくりばらんに意見を出していただきたい。

他の都道府県の状況の説明で 10 都道府県ということであったが、本県を含めると 11 都道府県ということではどうか？

（事務局）

本県を含めると 11 都道府県となる。

（委員）

現状の項目で、指針策定前の面積（6,770万ha）も入れてはどうか。また、大豆だけでなくトウモロコシについてもふれてはどうか。

（委員）

「毎年種子を買わなければならなくなり」とあるが、毎年種子を買うのは F 1 でも同じで遺伝子組換え作物に限った話ではないのではないか。

（委員）

2 ページ目の（安全・安心）の 3 つ目の記述は市民は勉強しなくてもよいようにもとれ、3 ページ目の最後の（教育のあり方）の教育の必要性との記述と矛盾するのではないか。

（座長）

教育のあり方については、消費者が他人に判断を委ねず、自分で判断する習慣を養う必要があるということ。（安全・安心）の項の「市民は勉強しなければならない」という専門家の姿勢についての記述は、教育とは別の意味と考えている。

(座長)

これまでの委員会でマスコミに対する批判があったが、マスコミに関する記述は資料のとおりでよいか？

(座長)

基礎研究の遅れに関して、我が国での販売や輸入が認められている遺伝子組換え食品は169品種(平成24年2月時点)あるが、開発者が日本の企業あるいは日本の研究者であるものはない。栽培が許されない社会的状況のため、研究や技術開発が遅れている。

(委員)

企業の立場から言うと、遺伝子組換えの研究所を閉めるなど、産業化にますますの遅れが生じており、雇用の場も失われていると言える。

(委員)

高校生の中には興味を持つ人も多いが、そうした若者の芽を摘んでいることにもなる。

(委員)

リスクに関して、リスクが許容されにくい背景として食べ物であることがあり、子供に食べさせる場合は過大に評価してしまう傾向にある。遺伝子組換え作物は意図的に作成しているので、影響は科学的につかみやすく、リスクは許容しやすい。一方、放射能については、影響が捉えにくく、不安に思う。遺伝子組換え作物に不安を抱く人は減ってきていることはないか？

(座長)

表示の必要な食品が1品目たりとも売られていないのは、社会的受容が進んでいないからではないか。

(委員)

遺伝子組換えも放射能と同じように不安に思われているが、遺伝子組換えは科学の基準があるので、分かりやすいかもしれない。

(座長)

確かに放射能より分かりやすい。しかし、いずれも子供のほうが影響を受けやすいため、親が過剰に心配する。

(委員)

いくら頭で分かっても、心配で受け入れられない人がおり、いくらリスクコミュニケーションを行っても平行線ということもある。

(委員)

遺伝子組換えに反対であった環境保護の立場の人が、「遺伝子組換え作物に関して調べたところ、客観的に見れば危険なものではなく、メリットがあると気づき、これまで反対していたことを反省する」と、オックスフォード農業会議(イギリス)でスピーチしたことが、ホームページに掲載されている。(掲載記事の資料を配付)

(座長)

この方は生態系への影響を懸念されていたが、この資料では、同時に遺伝子組換え食品の安全性についても自然食品との対比で問題はないと述べられている。

(座長)

「遺伝子組換えではありません」という表示は批難されるべき。

(委員)

「ありません」と書いてあると良いと思ってしまう。何も書かないほうが良いのではないか。

(委員)

理屈に関係なく、会合では、誰か一人があかんと言ったら、全体がそうになってしまう。勉強会をしていただきたい。

(座長)

行政としては勉強会を実施してこられたが、全人口に対しては、勉強会に参加した人はごく僅か。

(委員)

遺伝子組換え作物の勉強会というと誰も来ないので、女性が集まる機会に、話をしてもらうと良いのではないか。

(座長)

このやり方には限界がある。滋賀県だけでなく、全国で啓発はされているはずだが、何も変わらない。社会的受容が広がらないのは啓発よりも教育のあり方が問題。

(委員)

マスコミの責任が大きい。衝撃的なことは報じるが、正しいことを言おうとすると報じられない。

(委員)

マスコミは有名タレントを使う。タレントが駄目というから駄目と言ってしまう。マスコミ、有名人に惑わされないことが大切。

(座長)

ジャーナリズムはセンセーショナルな伝え方をしないと売れない。一方で、専門家も発信すべきではないか。新しい情報の伝達の仕組みを科学者も一緒に考えていかなければならない。

(委員)

県立大学と滋賀大学経済学部の学生を対象に、「遺伝子と社会」という講義で毎年アンケートを行っている。遺伝子組換えで価格が安い豆腐と、非遺伝子組換えで価格が高い豆腐のどちらを買うかという問いに対して、講義を行うと遺伝子組換えの豆腐を買うという学生の割合が増える。このように教育の効果はある。

(座長)

こうした啓発は必要だが、対象人数に限りがあり全国民を対象にはできない。

(委員)

学会でも勉強会を実施しているが、一般の方に勉強会をするという情報を提供することが難しい。また、聞いて分かりやすい内容に改善すべき。

(座長)

専門家と市民との意識の乖離が問題。その距離を縮めるためにみんなが努力することが必要。

(座長)

植物工場についてはどうか。

(委員)

植物工場はエネルギーを使いすぎる。

(委員)

植物工場は安全安心をイメージとしているため、遺伝子組換えは難しいのではないか。

日本は国土が狭いので、技術で貢献すべき。遺伝子組換え技術の研究で世界に貢献できるよう研究の指針は緩くすべき。

(座長)

植物工場は、閉鎖系で生態系への影響がないこと、また、基礎研究に使えるというメリットがあるが、採算性から考えると難しいが。

(委員)

植物工場で利益を上げているところはないのではないか。

(委員)

医療用なら植物工場も考えられる。

(座長)

植物工場について、論点整理であえてふれる必要はない。理解促進と基礎研究は怠ってはならないという点を書いておけばよいのではないか。

(座長)

項目3の遺伝子組換え作物の栽培に関する滋賀県指針の検証に関してはどうか。社会的状況に変化はなく、指針の見直しは行わずにきた。

(座長)

もう一度、最初から確認させていただく。最初の栽培・流通の項目についてどうか？

(委員)

世界の栽培の状況について、指針策定前の面積も記述するほうが変化が分かりやすい。

(座長)

そのように修正いただく。トウモロコシに関してはどうか。

(委員)

日本人は大豆が中心なので、トウモロコシにふれなくても良いのではないか。

(座長)

トウモロコシについてはふれないこととする。

(座長)

「毎年種子を購入しなければならない」という部分は？

(委員)

その部分を削除すればよい。

(座長)

科学者の姿勢と教育のあり方の箇所は？

(西山委員)

「研究者の社会的責任を放棄していることになる」とすればよいのではないか。

(委員)

自分で判断する習慣を身につけることが大切。

(委員)

「一方的な姿勢」とすればどうか。

(座長)

意見のとおり修正する。

(座長)

産業化が遅れるということについてはどうか？

(委員)

「学術展開にますますの遅れをもたらす」の中に「産業化」を入れてはどうか。

(座長)

そのように修正する。

(座長)

2の最後の所は？

(委員)

「医療用ワクチンなどの基礎研究は怠ってはならない」としてはどうか。

(座長)

文章表現は事務局に任せる。

(座長)

他に全体を通して意見はないか。

(委員)

教育のあり方の箇所、文章を平易に短くしてはどうか。

(委員)

「グローバルの視点」は分かりにくいので、「世界的な食料危機の視点」としてはどうか。

(委員)

技術的には遺伝子組換え作物はいつでも作れるという状態。農林水産省は現状では普及を考えていないのではないか。

(委員)

民主党政権の時は進まなかったが、自民党になってどうなるか分からない。

(委員)

反対が静まっている時こそ、地道な教育が必要と思う。

(委員)

豆腐業界では、「遺伝子組換えではありません」という表示を行うこととしており、法的にも任意表示として認められている。

(委員)

「「遺伝子組換えではありません」という表示が、遺伝子組換えに問題があるというイメージを与えてしまっている」としてはどうか。

(座長)

滋賀県を含め全国的に変化がない中で、何らかのブレークスルーになるようなことをしないと前に進まないと思っており、そのための何か良い方法があればと思っている。

(委員)

指針に記載されている現状の面積等について最新の数字を附則に入れても良いのではないか。

(事務局)

論点整理の冒頭に現状の面積を入れている。

(座長)

指針に入れると指針の修正となってしまうため、指針に入れることは不適切。

(座長)

論点整理については、皆さんの意見を踏まえて事務局で修正させていただき、皆さんに送付させていただく。

指針については、変更する状況にないため、現状のままで見直さないということとさせていただきます。